

# 「よりグローバルに、よりタフに」 ～東京大学の総合的教育改革への取り組み～

平成25年10月4日  
学事暦の多様化と  
ギャップタームに  
関する検討会議



東京大学総長 濱田純一

## 「よりグローバルに、よりタフに」

### ■ 「グローバル」

たんに、語学ができたり、世界について知っているというだけでなく、今まで自分が生きてきたものとは異なる生活やものの考え方、価値観などとぶつかり合い、そうした異質なものを、多様なものを、自分の知力、行動力、想像力の源泉として取り込んでいくこと

### ■ 「タフ」

いかなる状況の中でも主体的に考え能動的に行動し、そうした姿勢を持続できる精神的なたくましさ



知的な力をぎりぎりまで鍛えながら、  
「よりグローバルに、よりタフに」

## ■「東京大学憲章」(平成15年3月18日制定)

(前文)

東京大学はこれまでの蓄積をふまえつつ、世界的な水準での学問研究の牽引力であること、あわせて公正な社会の実現、科学・技術の進歩と文化の創造に貢献する、世界的視野をもった市民的エリートが育つ場であることをあらためて目指す。

(教育の目標)

東京大学は、東京大学で学ぶに相応しい資質を有するすべての者に門戸を開き、広い視野を有するとともに高度の専門的知識と理解力、洞察力、実践力、想像力を兼ね備え、かつ、国際性と開拓者の精神をもった、各分野の指導的人格を養成する。

## ■「行動シナリオ FOREST2015」(平成22年3月策定)

重点テーマ2 グローバル・キャンパスの形成

重点テーマ4 「タフな東大生」の育成

※ その達成に不可欠な学生構成の多様化

# 新たな教育システム

## 総合的な教育改革の一環、手段としての秋季入学構想

【達成手段】

学習体験を豊かにする柔軟な教育システムへの改革

【中間目標】

大学教育の国際化、学生構成の多様化

【最終目標】

東京大学のミッション、教育理念の実現

1. 学部段階の秋季入学への移行  
春季入学を廃止して全面移行(大学院段階は引き続き検討)
2. ギャップタームの導入  
4月から約半年のギャップタームを設定し、各種の体験活動を促進
3. 優秀な学生への対応  
大学院教育への早期のアクセスを可能化(早期卒業制度の導入など)

「よりグローバルに、よりタフに」

## 秋入学制度の「3点セット」

- ① 国際水準の（世界の多くの大学と整合性の高い）  
学事暦
- ② 国際水準の（世界の有力大学と競争できる）  
教育内容・方法
- ③ 国際水準の（世界の変化に柔軟に対応できる）  
社会環境

## 秋季入学への移行の意義と課題

### ■ 意義

- ① 国際的な学生の流動性の向上
- ② 学事暦の見直しによる教育の効率性の向上
- ③ ギャップタームを活用した学習体験の豊富化
- ④ 社会へのインパクト(グローバル化推進等)

- ➡
- ★大学の教育力・研究の強化
  - ★日本の国際競争力向上と社会の発展、地球規模の課題解決への寄与・貢献

### ■ 課題

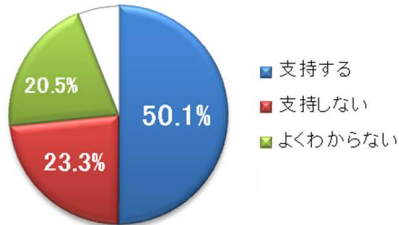
- ① 家計負担の増大と教育機会の均等をめぐる問題
- ② 春卒業を想定した現在の就職・資格試験等の仕組みとの関係
- ③ ギャップタームにおける身分や有意義な活動の可能性

# 学生からの反応(新入生)

## ■ 東大新聞アンケート

(平成24年4月1日～2日に実施、学部新入生対象、回答者数3128、平成24年4月24日掲載)

### 秋入学を支持しますか



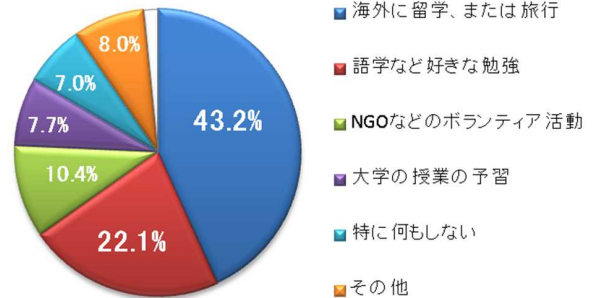
「支持する」理由(複数回答):

- 「留学しやすくなる」(51%)
- 「優秀な人材が集まる」(46%)
- 「ギャップタームで有意義な活動ができる」(42%)

「支持しない」理由(複数回答):

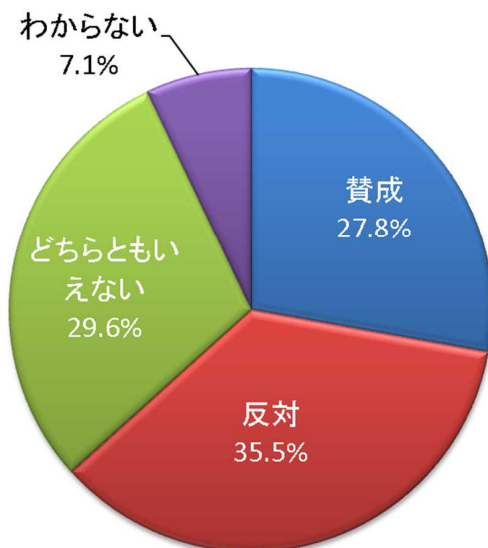
- 「ギャップタームの過ごし方に経済的条件が影響する」(49%)

### もしGTが与えられるとしたらどう過ごすか



# 学生からの反応(学部学生)

## 秋季入学構想をどう受け止めているか



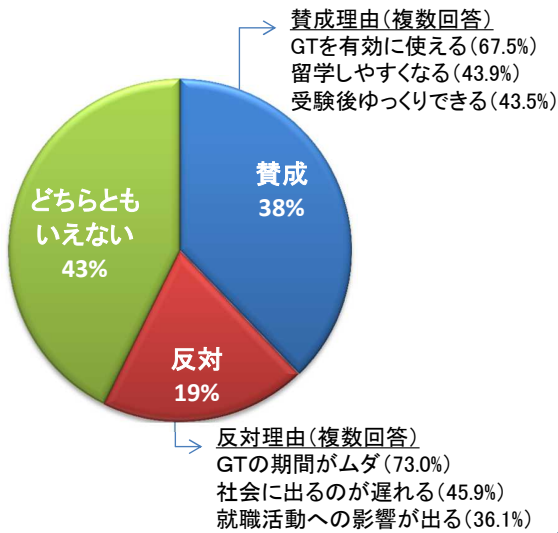
Q: 現在、東大では、教育の国際化を推進する等の観点から、学部の入学時期を4月から秋に移行させることが検討されています。あなたは、この秋季入学構想について、どう受け止めていますか。どれか1つに○をつけてください。

出典: 2012年学生生活実態調査(東京大学学部学生対象、回答数:1,514件)  
※無回答を除いた集計(速報値)

# 高校関係者からの反応①

- **高校生** (リクルート進学総研「高校生価値意識調査2012」平成24年4月13日～20日に実施 回答数826人 平成24年6月28日発表)

## 「秋入学」に対する賛否



## 「秋入学」の認知度

「秋入学」についてどの程度知っているか。

→「よく知っている」「聞いたことがある」75.9%  
「聞いたことがない」24.1%

## “グローバル化”と自分の関係

“グローバル化”が進むことは、あなた自身にどの程度関係があると思いますか。

→「関係あり」72.0%  
「関係なし」25.5%

# 高校関係者からの反応②

- **高校生** (大學新聞 平成23年7月11日～12日に実施 回答数323人 平成23年9月1日掲載)

- 「秋入学となったら入学までどのように過ごす？」

→回答の上位は「アルバイト」58%、「進学先からの課題」25%、「ボランティア(国内)」「海外留学」とともに23%で、「何もしない」は8%のみ

- **高校教員**

(大學新聞 平成24年3月21日～27日に実施、東京都・大阪府・愛知県に所在するすべての高校の進路指導教員が対象、回答数147校、回答率14.7%、平成24年4月10日掲載)

- 「東京大学の秋入学導入について」

「賛成」…17.0%

→理由として「グローバル化の社会情勢からその方がよいと思える」「国際的な競争力が必要だから」「トップ校の学生が外国でより磨きをかけて日本に還元して欲しい」など

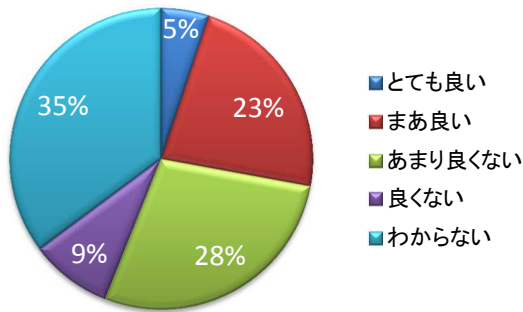
「反対」…18.4%、「どちらとも言えない」…57.8%

→理由として「4月入学が日本の風土に合っている」「経済的な負担が大きい」

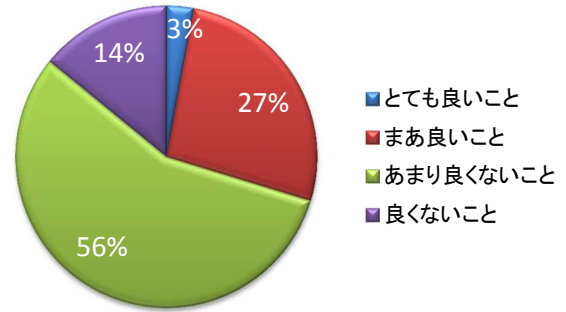
# 保護者からの反応

- **保護者** (Benesse教育情報サイト「大学の「秋入学」、あなたはどう思いますか？」平成24年3月14日～15日に実施  
当該サイトメンバー(幼児から高校生までの保護者)が対象 回答者数2,623人 平成24年9月27日発表)

大学の秋季入学についてどう感じるか



約半年の空白期間(GT)についてどう思うか



## 「総合的な教育改革」へ

「思い切った取組を、逐次であれ すみやかに実行」

「秋入学構想の実現に向けた重要なステップ」



4ターム(学期)制

+教育の内容・方法にかかわる全学的な教育改革



# 4ターム制のメリット

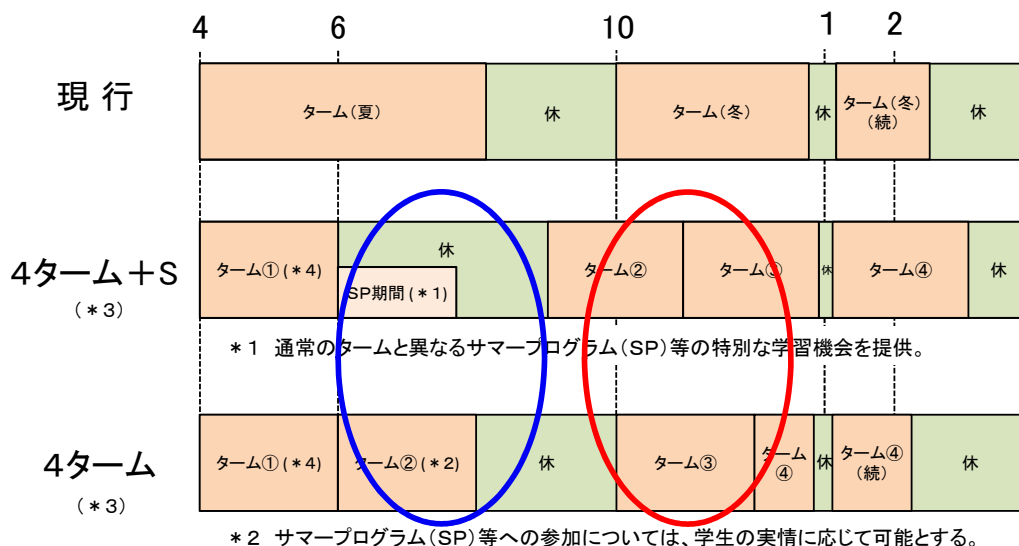
## ■ 学生・教員の国際流動性の向上

夏季休業期間および授業の開始・終了時期を国際標準に近づけ、夏季および学期単位で、学生の留学・教員の国際学術交流を促進。

## ■ 学びの質の向上・量の確保

- 週複数回授業による学習の集中度強化
- 短期完結型の科目導入による履修の自由度向上
- 長期休学期間の選択的拡大に伴う社会体験等の機会の充実

## 学事暦見直し(4ターム化)の運用形態の例



(以下、4ターム化に共通)

- \*3 特別休学制度の活用等によるギャップターム型運用や、教育上の特性に応じた複数タームにわたる科目開設も可能。
- \*4 初年次における「ターム①」においては、点数至上の価値観のリセット、大学での学びを俯瞰するための導入教育を重点的に実施。

# 海外大学の学事暦との比較

		1月					2月					3月					4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4		
	東京大学(現行)2010年度 (2010年度授業の学事日程をもとに作成)											①4/7-7/16																									②10/6-1/31																								
米	イェール大学	②1/9-4/23																																			①8/31-12/2																								
米	UCバークレー	②1/10-5/11																																								①8/18-12/16																			
カナダ	トロント大学	②1/2-3/30																																								①9/6-11/28																			
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)	②1/4-4/5																																								①9/6-12/2																			
英	ケンブリッジ大学	②1/17-3/16										③4/24-6/15																																			①10/4-12/2														
英	オックスフォード大学	②1/15-3/10										③4/22-6/26																																			①10/9-12/3														
豪	オーストラリア国立大学(ANU)						①2/20-6/1															②6/23-11/2																																							
シンガポール	シンガポール国立大学(NUS)	②1/9-5/5																																													①8/1-12/3														
中国	北京大学						②2/21-6/26																																													①9/6-1/16									
韓国	ソウル国立大学(SNU) 2011年度						①8/2-6/15																																													②9/1-12/15									

標記等について:①②③はそれぞれ第1、第2、第3学期を指す。赤帯は講義期間(赤帯がない場合は授業期間中に実施)。年度の記載があるものを除いて2011-12年度のデータを使用。

## 学内検討会議が指摘した「学生をめぐる課題」

- 何のために学び、学んだ成果を何に活かすのかという動機付けの不足
- 学習態度の受動性、点数至上の価値観への偏りの傾向
- 主体的な思考・課題発見能力・課題解決能力の不十分さ
- 表現力・交渉力・討議力などの不十分さ
- 英語力・国際コミュニケーション力の不十分さ
- 社会や世界との交流体験・グローバルな視点の不十分さ



# 学部教育の総合的改革に係るアクションリスト

ー ワールドクラスの大学教育の実現に向け、今取り組むべきことー

改革の原則・方向性	中期目標・計画期間中（平成27年度末まで）の取組
I 学びの質の向上・量の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生をしっかりと学ばせる仕組みの確立（学習総量の確保、成績評価の厳格化、GPA活用による学習支援、キャップ制の導入、週複数回授業の普及など）</li> <li>■ 教育方法の改善に対応するFD活動の推進（TA制度の改善、「フューチャー・ファカルティ・プログラム（FFP）」の確立を含む）</li> <li>■ 学びの質を向上し、量を確保する観点からの学事暦の見直し（4ターム化に伴う授業形態の変更など）</li> </ul>
II 主体的な学びの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 点数至上の価値観のリセットを目指した全学的な導入教育の強化</li> <li>■ 「教える」から「自ら学ばせる」（ラーニング）への転換を目指した授業の改善（少人数チュートリアル授業の導入、アクティブラーニングの普及など）</li> <li>■ 学生の主体的な履修を支えるカリキュラムの柔軟化（進学・卒業の要件の見直しを含む）</li> <li>■ 習熟度別授業など能力・適性に応じた教育の普及・展開（科目ナンバリング制の導入を含む）</li> <li>■ eラーニングの積極的な活用による教育方法の改善</li> </ul>
III 流動性の向上と学習機会の多様化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多様性に富む学習環境をつくる「グローバル・キャンパス」の実現（英語による授業、外国人教員、PEAK<sup>山</sup>・AIKOM<sup>山</sup>等の国際プログラムや全学交換留学制度の拡充など）</li> <li>■ 高度なトライリンガル人材を育成する「グローバルリーダー育成プログラム（GLP）」の構築と展開</li> <li>■ サービスラーニングの導入、ならびに「初年次長期自主活動プログラム（FLY）」の定着とその成果の普及（学士課程全体を通じた特別休学制度の活用を検討を含む）</li> <li>■ サマープログラムの開発等による多様な学習体験の機会の飛躍的な拡充</li> <li>■ 海外大学等との互換性、学生・教員の国際流動性を高める観点からの学事暦の見直し（タームの分割、夏季休業の拡大など）</li> </ul>
IV 学士課程としての一体性の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学での学びを俯瞰する全学的な導入教育の強化</li> <li>■ 学士課程の一貫性の観点に立ったカリキュラムの順次性・体系的の見直し</li> <li>■ 評価尺度の多元化の観点に立った後期課程進学制度の構築</li> <li>■ 全学に開放された共通授業科目制度、部局横断型教育プログラムの普及と展開</li> </ul>
V 教育制度の大枠の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 多様な学生構成の実現と学部教育の活性化を目指した推薦入試の導入</li> <li>■ 社会の変化を踏まえた入学定員の適正な規模・構成の提示（所要の組織体制の見直しを含む）</li> <li>■ PEAKの充実を図りつつ、秋季入学の環境整備に向けた社会への働きかけ、他大学との連携協力の強化</li> <li>■ 学部・大学院の一貫的な教育プログラムの研究開発、ならびに優秀な学部学生が大学院レベルの学習にアクセスする機会の拡大（早期卒業制度の導入、科目履修の弾力化など）</li> </ul>

<sup>山</sup> Programs in English at Komaba; 教養学部英語コース

<sup>山</sup> Abroad in Komaba; 教養学部交換留学制度

## 教養学部の改革提案

- ・ 4ターム制の導入・履修形態の柔軟化による国際流動性の向上  
→年間300～500人規模で海外大学のサマースクールや交換留学へ
- ・ FLYプログラム（初年次長期自主活動プログラム）を半年単位でも運用
- ・ 少人数チュートリアル授業を初年次に導入
- ・ 習熟度別授業科目の導入による、意欲ある学生の能力のさらなる伸長
- ・ 短期留学生の受け入れ拡大、秋入学学部プログラムの拡大
- ・ 外国語を母語とする教員の2倍増、外国語による授業を3倍増
- ・ 双方向型授業の大幅増加と「後期教養教育」科目の導入

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載 (<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/important/1.shoshin.pdf>)

# 世界大学ランキング

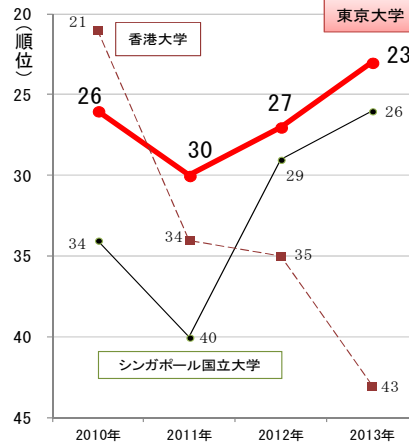
Times Higher Education World University Rankings 2013-2014 (平成25年10月3日発表)

- 東京大学は世界23位(昨年27位)
- アジアでは1位(2位:シンガポール国立大学、3位:香港大学)

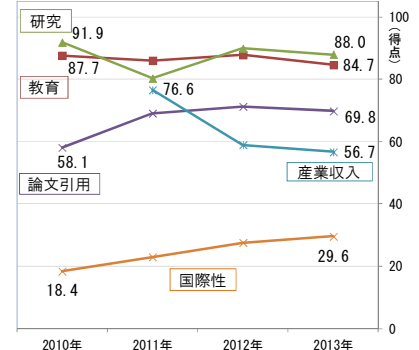
上位10校と東京大学の位置

順位	大学名	国名	総合得点
1	CALTEC	USA	94.9
2	Harvard University	USA	93.9
2	University of Oxford	UK	93.9
4	Stanford University	USA	93.8
5	MIT	USA	93.0
6	Princeton University	USA	92.7
7	University of Cambridge	UK	92.3
8	UC Berkeley	USA	89.8
9	University of Chicago	USA	87.8
10	Imperial College London	UK	87.5
...	...	...	...
23	東京大学	日本	76.4

東京大学の総合順位の推移とアジアの2大学との比較



東京大学の評価指標ごとの得点の推移



<総合評価に対する指標ごとの重みづけ>  
 教育(30%)、研究(30%)、論文引用(30%)、産業収入(2.5%)、国際性(7.5%)

<参考>

- ・ Quacquarelli Symonds社が平成25年9月10日に発表した「QS World University Rankings 2013-2014」では32位。
- ・ THE社が平成25年9月5日に発表した「THE Alma Mater Index: Global Executives 2013」(Fortune Global誌が選んだ世界的企業500の母校調査によるランキング)では2位。

## ギャップターム導入の趣旨

先端の研究や社会との接点を持つ多様な体験を通じて、

- 大学で学ぶ目的意識を明確化、動機づけ
- 偏差値重視の価値観のリセット、学ぶ姿勢への転換
- 入学後の海外留学等に挑戦する素地づくり

※「ギャップイヤー」と「ギャップターム」の比較

	取得時期	取得期間	対象者
欧米のギャップイヤー	・大学入学前 ・大学在学中の休学期間 ・大学卒業から大学院進学や就職までの期間	3~24か月	希望者
東大が提言するギャップターム	大学入学前	約半年	全員

# ギャップターム活動の具体例と課題

## 具体例

### 1. 知的な冒険・挑戦をする

学術俯瞰、研究室、フィールドワーク、言語・異文化学習など

### 2. 社会体験を通じて視野を広げる

ボランティア、国際交流、インターンシップなど

### 3. 大学での学びに向けた基礎をつくる

基礎学力養成、体力増進、日本語・日本文化理解(対外国人)

## 課題

### 有意義な体験の機会となりえるか？

- 当事者の成熟度を踏まえた対応(大学の関与・責任、身分など)
- 活動の「受け皿」の量的・質的な確保
- 教育の機会均等への配慮(経済条件や地域による格差是正)
- 「学力低下」不安への対応
- 活動期間中の活動の評価、初年次教育への接続

⇒ 学内体制の整備、大学間連携、学社連携の必要性

## ギャップターム試行

## 初年次長期自主活動プログラム①

(FLY Program -Freshers' Leave Year Program-)

### ■ 目的・趣旨等

入学直後の学生が、通常の大学生生活の開始に先立ち、社会における主体的な活動を長期間体験することを通じて、従来の意識・価値観を相対化しつつ、大学での学びの意義・目的を自ら確認・発見できる途を拓く。

※ 学生は1年間の休学を取得

### ■ 経済的な支援

本プログラム採用者に対しては、有意義な活動への積極的な取組みを支援する観点から経費の一部を支援。(上限額50万円)

### ■ 参加状況

平成25年度は11名(男性9名、女性2名)が海外を中心に活動中。

活動地域	活動の種類例	活動のテーマ例
アジア(インド、マレーシアなど)	海外語学研修	語学を磨き、同時に建築学にも触れるためにドイツの大学に約半年滞在し学ぶ。
オセアニア(オーストラリア)	海外ボランティア	海外でのボランティア活動や旅行を通じて、異文化や国際社会への理解を深め、外国語によるコミュニケーション能力を高める。
北米(アメリカ、カナダ)	海外就労体験	
ヨーロッパ(イギリス、フランス、ドイツなど)	海外サマースクール	海外での長期滞在を通じた異文化交流と日本文化の再認識。
国内(東北地方)	国内ボランティア(震災復興支援、医療分野)	

### ■ 後援団体

産業界11団体、非営利団体4団体、公的機関(文部科学省)の計16団体。

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載(<http://www.c.u-tokyo.ac.jp/info/academics/fly/index.html>)

■ 実際の活動の例

AERA2013.9.9号「日本版ギャップイヤー」に挑む学生たち」より

● 文科二類学生A(19歳、2013年4月入学)

- ▶ 釜石市でインターンシップ生として地域振興事業「釜援隊」を担当。
- ▶ 自治体、企業、NPOなどの関係者の調整を主に行い、震災後休止されていた祭り「釜石よいさ」の運営、仮設住宅の入居者の声の広い上げなど、多岐にわたる業務を経験。
- ▶ 「もし春から普通の学生になっていたら、もっと漫然と過ごしていた気がします。ここで多様なバックグラウンドの人と出会って刺激をうけ、自分の将来を考える機会も増えました。学びたいことをしっかり吟味できる1年になりそうです」

● 文科二類学生B(18歳、2013年4月入学)

- ▶ 2014年3月までイギリスとフランスに滞在予定。
- ▶ 高校1年生時にイギリスでサマースクールに参加したことがきっかけで応募。
- ▶ 「いろいろな国の人と仲良くなって会話したり、一緒に食事をとったりしています。こちらに来てみて驚いたのは現地の人がものすごく頻繁にお礼を言うこと、ヨーロッパでも東大を知っている人が結構いることです」

体験活動の推進事業①(概要)

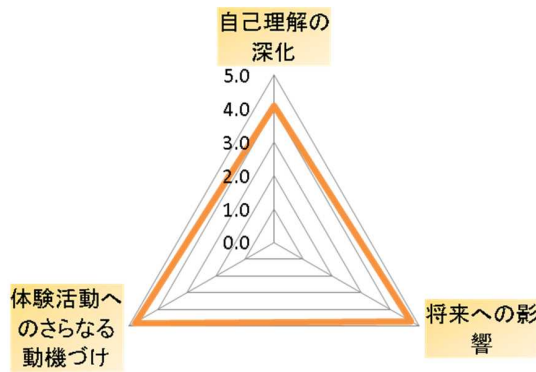
学部前期・後期課程の学生を対象とし、大学生活とは異なった考え方や発想、行動様式または価値観と触れ合うための多様な形態と内容のプログラムを実施(平成24年度開始)。

■ 平成25年度計画の概要

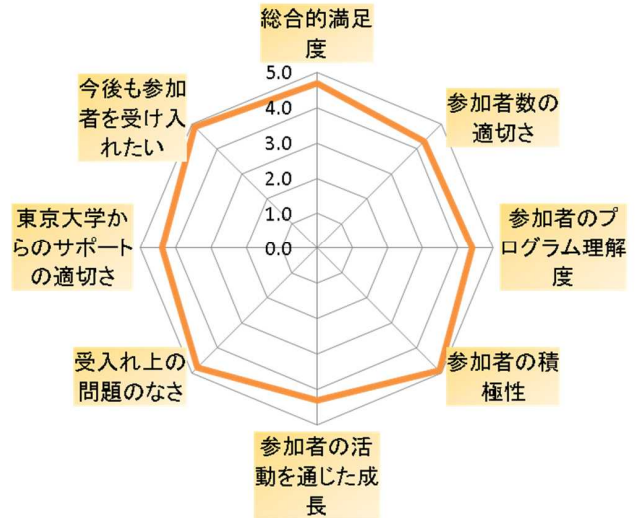
夏季休業期間に1週間程度のプログラムを中心として実施。

	プログラムの例	募集人数	<参考> 平成24年度実績
国内での活動 (全51プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験と漁業体験</li> <li>・障がいという個性に触れよう</li> <li>・復興まちづくりの業務体験</li> <li>・陶板複製名画美術館を体験する</li> <li>以上の他47プログラムを実施</li> </ul>	約390名	全34プログラム 募集人数:385名 (参加人数:90名)
海外での活動 (全24プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーガニック牧場での Sustainable agriculture 体験 (アメリカ)</li> <li>・フランス中世のゴシック大聖堂の実施調査 (フランス)</li> <li>・新興国インドでのマーケティングリサーチ (インド)</li> <li>以上の他21プログラムを実施</li> </ul>	約170名	全13プログラム 募集人数:79名 (参加人数:86名)
学内での 研究室体験活動 (全39プログラム)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物バイオテクノロジー体験</li> <li>・知能移動ロボットの行動と制御</li> <li>・ラボで宇宙プラズマを体験する</li> <li>以上の他36プログラムを実施</li> </ul>	約170名	—
計(全114プログラム)		約730名	全47プログラム 募集人数:464名 (参加人数:176名)

## 参加学生にとっての成果(5段階評価)



## 受入先の評価(5段階評価)



### <参加学生の声>

- ▶ (自身の価値観に対して) 確信の深まり方が変わったと言っても遜色ない
- ▶ (自身の長所について) 変わったというより、発見したという方がたぶん強い
- ▶ 普段、知的なアウトプットの多寡といった基準のみで生きている自分にとって新たな価値観を示してくれるものだった。
- ▶ 東大を含め、社会の中で上位として扱われる大学とそこに所属する人がどれほどupperな階層にいるのか、現地の人と話す中で強い問題意識を抱いた。

全参加学生および全受入れ機関を対象とした活動終了後のアンケート結果による。5段階評価の内訳はそれぞれ、5…とてもそう思う、4…ややそう思う、3…どちらとも言えない、2…あまりそう思わない、1…全くそう思わない。

出典:平成24年度体験活動の推進に関するWG報告書(東京大学)

# 学部段階での初の秋入学 PEAK -Programs in English at Komaba-

教養学部開設された英語による授業科目のみからなる学位プログラム。平成24年10月(秋季入学)から開始(初年度入学者27名)。

### ■ プログラムの構成

- 前期課程 (1年、2年) 「国際教養コース」(International General Education Program)
- 後期課程 (3年、4年) 「国際日本研究コース」(International Program on Japan in East Asia)  
「国際環境学コース」(International Program on Environmental Sciences)

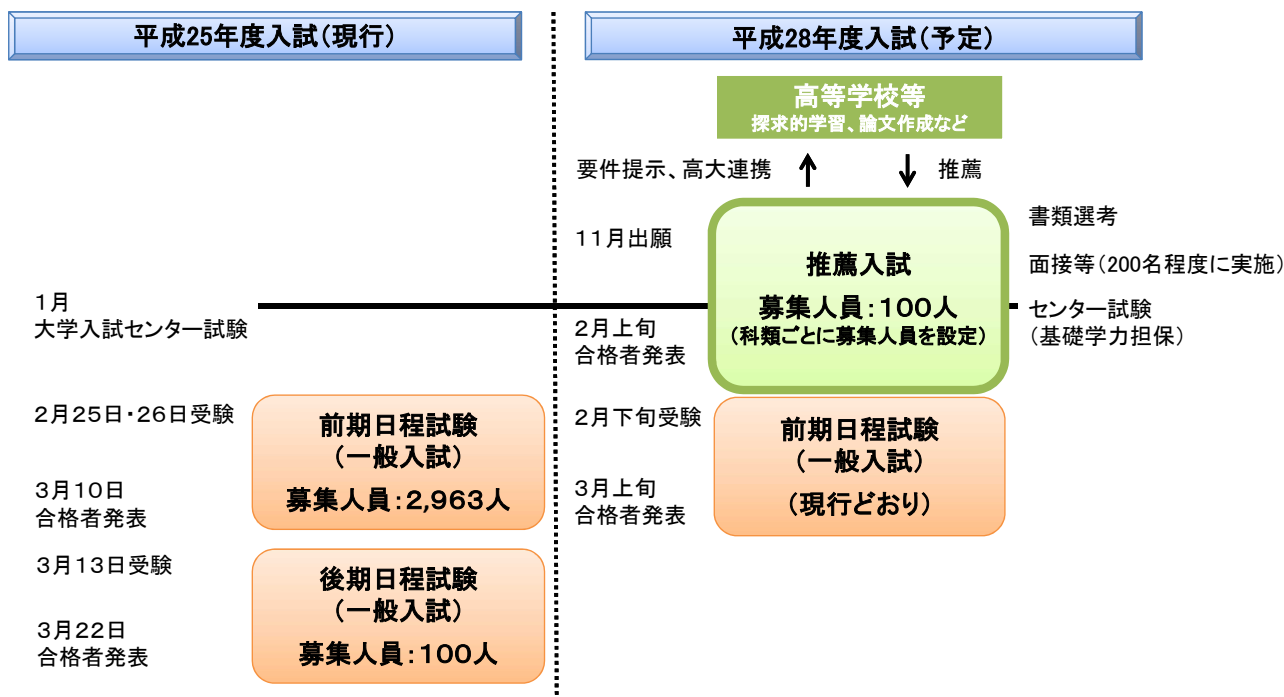
- 基本的に初等・中等教育を日本語以外で履修した学生を対象とし、書類と面接審査によるアドミッション・オフィス(AO)入試により選抜。

詳細は東京大学教養学部ウェブサイトに掲載 (<http://peak.c.u-tokyo.ac.jp/>)



# 推薦入試の導入(イメージ)

入学者の選抜方法・尺度を多元化し、高等学校等での学習成果を適切に評価する観点から、基本となる前期日程試験を維持しつつ、後期日程試験の後継として推薦入試を導入する予定(平成28年度から)。



# 学部教育の総合的改革に関する実施方針(平成25年7月決定)

## 1. アクションリストの実施

(平成27年度末までに実施)

## 2. 学事暦の見直し

- 4ターム制の導入
- 秋季入学の拡充と推進

## 3. 改革の実施体制

- 臨時教育改革本部の設置(9月発足)

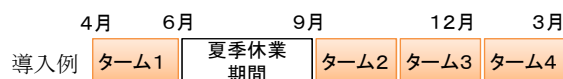
## 4. 中期計画の扱い

- 第2期中期計画の変更、第3期中期計画への反映

### 教育内容・方法の改革(例)

- ✓ 学生をしっかりと学ばせる仕組みの確立  
→ 学習総量の確保、GPA活用による学習支援など
- ✓ 「教える授ける」(ティーチング)から「自ら学ばせる」(ラーニング)への転換を目指した授業の改善  
→ アクティブラーニングの普及など
- ✓ 初年次長期自主活動プログラム(FLY Program)の定着と普及、多様な学習体験の機会の飛躍的な拡充

### 4ターム制の導入(イメージ)



- ✓ 質の高い柔軟な学修を実現、多様な学習の機会の実現
- ✓ 学事暦を国際標準に近付け、国際流動性を向上



### <政府との相談を要する事項>

#### 1. 教育制度の弾力化

修業年限など

#### 2. 体験活動の推進に向けた環境整備

官公庁におけるインターンシップの受入れ、学生への経済的支援など

#### 3. 公的資格試験の実施方法等の柔軟化

医師国家試験、司法試験など

#### 4. 官公庁の採用の柔軟化

#### 5. 大学に対する公的投資の拡充

大学改革の促進、国際化のインフラ整備

⇒ 大学の主体的な動きを見守りつつ、適時適切なバックアップを期待

(基本的な構え:①大学の主体的な改革努力への重点的支援、②制度・システムにおける制約・隘路の除去、③改革を支える社会的な機運の醸成、④教育の機会均等の確保など)

### <産業界との相談を要する事項>

#### 1. 採用時期・方法の見直し

採用時期の柔軟化(春季一括採用の見直し)

採用活動の長期化・早期化の是正

採用選考における海外留学など多様な学習体験の十分な評価

求める人材像、評価基準の明確化

#### 2. 学生の学習体験の充実に向けた取組みへの協力

体験活動推進(ギャップタームの受け皿づくりを含む)の枠組みへの参画

国内外のインターンシップ等の機会の提供

学生に対する経済的支援

- 「改革つるべ打ち」で、個別の実績を上げる  
⇒経験値を高める、大学や社会の意識を変える
- しつこさ～「タフ」さ。  
素早く、根気よく、ポイントを稼ぐ
- 議論・評論は終わった。  
「参加する」こと、「やってみる」こと